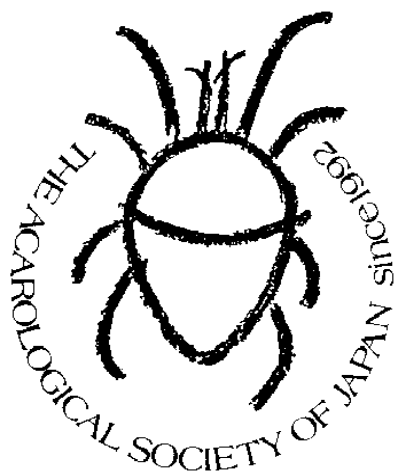

第 19 回
日本ダニ学会仙台大会
プログラム



会 期 : 2010 年 9 月 10 日 (金) ~ 12 日 (日)
会 場 : 国立大学法人 宮城教育大学 講義棟 210 番教室
事務局 : 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149
宮城教育大学 環境教育実践研究センター 島野研究室
TEL 022-214-3515 FAX 022-211-5594

共 催 : 宮城教育大学
後 援 : (財) 宮城県公衆衛生協会, 宮城県農業・園芸総合研究所

目 次

大会要領	1
大会の案内	2
シンポジウム要旨	4
一般講演 (9/11)	6
シンポジウム (9/11)	7
一般講演 (9/12)	8
大会参加者名簿	10
会場案内図	12

第 19 回日本ダニ学会大会仙台大会運営組織

大 会 長： 大竹 秀男（宮城大学）

事 務 局： 島野 智之（宮城教育大学）

運 営 委 員： 藤田 博己（大原総合病院附属大原研究所）
栗城 源一（奥羽大学 生物学教室）
黒木 知美（宮城県）
増田 俊雄（宮城県農業・園芸総合研究所
園芸環境部 虫害チーム）
岡崎 一博（福島県農業総合センター
生産環境部 作物保護科）
豊島 真吾（野菜茶業研究所 金谷茶業研究拠）

第 19 回 日本ダニ学会大会仙台大会要領

会 期：2010 年 9 月 10 日（金）～ 12 日（日）

会 場：国立大学法人 宮城教育大学 講義棟 210 番教室
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149

日 程： 9 月 10 日（金）

13:15 ～ 14:45 ホームページ委員会
（宮城教育大学 萩朋会館 2 階 国際・地域交流室）
15:00 ～ 16:20 編集委員会（会場：同上）
16:30 ～ 18:00 評議員会（会場：同上）

9 月 11 日（土）

8:30 ～ 受付
8:55 ～ 9:00 開会あいさつ
9:00 ～ 12:00 一般講演（講演番号 1 ～ 13）
12:00 ～ 13:00 昼食休憩
13:00 ～ 14:20 公開シンポジウム
「東北地方における恙虫病の変遷と今後の課題 - ツツ
ガムシというダニそして恙虫病, それは東北地方に始ま
った古くて新しい話 - 」
演者： 高田伸弘博士
14:20 ～ 14:40 写真撮影
14:40 ～ 15:40 総会
15:40 ～ 17:40 一般講演（講演番号 14 ～ 22）
18:30 ～ 20:30 懇親会
（シェルブール・スマイルホテル仙台区分町）

9 月 12 日（日）

9:00 ～ 12:15 一般講演（講演番号 23 ～ 36）
12:15 ～ 12:20 閉会あいさつ

大会の案内

受付

- 9月11日(土) 8:30 から会場前(講義棟 210 番教室前)にて行います。受付にて大会参加費 4000 円(学生 2000 円)、懇親会費: 5000 円(学生 3000 円)、弁当代(希望者のみ、700 円、11 日(土)分)をお支払いください。
- 弁当を申し込まれた方は、弁当券をお受け取りください。
- 受付にてお渡しした名札は、会場内では常時お付け下さい。
- 事前にお送りいただいている CD を、返却希望の方はお申し出下さい。

一般講演

- 講演時間は 1 題 13 分(発表 10 分、質疑 3 分)です。演者は次の演題の座長をお願いします。プログラムに余裕がありませんので、時間厳守にご協力願います。
- 講演はすべて液晶プロジェクター(Windows 版 PowerPoint 2007)で行って頂きます。講演での PowerPoint の使用については、演者自身で操作をお願いいたします。また、PC の持ち込みによる接続は致しません。

講演要旨

- 講演要旨は日本ダニ学会誌 19 巻 1 号の巻末および大会 HP を参照の上、下記のいずれかの方法でご提出下さい。可能な限り①または②の方法をお願いします。
 - ① 添付ファイルとして電子メールで編集部まで送付
 - ② FD もしくは CD-R に保存して受付に提出または編集部へ郵送
 - ③ 電子メール本文にテキスト形式で記入して編集部まで送付
 - ④ A4 判紙に楷書で記入して受付に提出または編集部へ郵送

記念写真撮影

- 9月11日(土)の公開シンポジウム終了後、大会会場付近にて撮影しますので、遅れずにご参集下さい。写真は、懇親会場または、翌9月12日(日)に受付にてお受け取り下さい。受取の際、名簿にチェックを入れて下さい。

昼食、休憩及び展示ブース

- 当日は大学付近に食堂はありませんので(生協食堂は休み)、必ず弁当をご持参下さい。
- 大会会場と同じ1階「リフレッシュスペース」が休憩場所になりますのでご利用下さい。
- 休憩場所に賛助会員の展示ブースを開設しますので、お立ち寄り下さい。

懇親会

- 9月11日(土) 18:30よりシェルブール仙台店(スマイルホテル仙台区分町3F)宮城県仙台市青葉区一番町4-3-22 tel 022-261-7733)にて行います.
- 一般講演終了後、直ちに大会会場からバスにて移動しますので、遅れずにご参集下さい。 バス料金は懇親会費に含まれています.

その他

- 宮城教育大学はゴミの分別には制限があります。また、学内は全面禁煙です。構内のルールを厳守頂きますようお願いいたします。
- 大会開催期間中は、大会会場と同じ建物の他の教室で試験、講義などが行われていますので、静かな環境の確保にご協力をお願いいたします。
- 構内に駐車場はありますが、手狭になっておりますので、車でのご来場はできるだけご遠慮願います。なお、車でご来場の方は、学生用駐車場をご利用下さい。

公開シンポジウム講演要旨

福井大学シニアフェロー・ 福井医療短期大学客員教授
高田 伸弘

東北地方における恙虫病の変遷と今後の課題

ーツツガムシというダニそして恙虫病，それは東北地方に始まった古くて新しい話ー

古く小学唱歌「ふるさと」に“つつがなきや…”という一節があることはよく知られている。語源は中国古典上の「つつが（恙）＝病氣」なので、これは「病氣もせずにお元気ですか」と言うだけで、「恙虫病に罹りませんように」とまで言っていない。明治以来の伝染病予防法に代わり、ようやく 1999 年から施行された感染症法上では、「恙」の語が当用漢字にないため、それだけを平仮名綴りとして「つつが虫病」と書かれたが、私どもを含む研究者や各方面では、ツツガムシが媒介するツツガムシ病と書くことが多いのも実情である。

ともあれ、中国では紀元 300 年前後から「沙虱毒」として記録され、わが国では江戸時代後半から明確な記録がみられて、東北の日本海側（秋田、山形、新潟県）の大河流域で恐れられ、里ごとに神に祭り上げる形で忌避された熱性発疹性の風土病であった。その病原体がアカツツガムシ（俗称は赤虫、嶋虫、ケダニ、また砂虱とも）という微小なダニ類に媒介される桿菌リケッチア類（*Orientia tsutsugamushi*）であることは、わが国の研究者らが犠牲者を出しながらも昭和初期までに解明した業績である。

以上が文化人類学的な要素も含んだ古い話で、やがて、太平洋戦線で本病に懲りた米軍がわが国に進駐してまもなく富士山麓で見つけたのが契機で、全国に潜在感染（多様な媒介ツツガムシ種と菌型）が分かって来たのが新しい話である。一時、全国にわたる盛んな調査を基に各地で発生が確認されたが、平常に戻ると感染自体も減ったかのように届出数は消滅しかかった。しかしテトラサイクリン系抗生剤の使用抑制、検査法の改良、関心の高まりを機に届出数が増加し、近年は年間数百～千例のレベルを維持している。この間、大きな変化なく進んでいた研究方法論が、この 20 年間は研究者や方法論の変遷著しく、有力媒介種（フトゲツツガムシ、タテツツガムシなど）の媒介能や生態解析、また病原体の遺伝子レベルによる学名変更や系統解析、さらに検査法の革新（PCR による遺伝子検出や培養細胞による生菌分離）、加えて重症化機序や治療法など臨床対応の見直しなど枚挙にいとまがない。

ところで、疫学面では、各地でタテツツガムシの予想以上の広がりや意義、秋田県などでアカツツガムシの再燃、さらに南西諸島宮古島では南方系のデリーツツガムシによる

患者続発など、むしろ最近になって話題が絶えない。このように、古い知見は基盤として、今の新しい方法論と観点から、改めて環境—ムシ—病原体の関係を検討する必要があるが出てきている。そういう中で終わりが見えないのは予防や防除の面であって、本病は自然環境の何処でも感染し得る病気であるゆえに、自然環境との共生が言われる現代では何をなすべきか、あるいは何をしてはならないか、課題が多い。とは言え、ダニ学の立場からできることはなにか、この機会に参加者各位のお知恵も拝借する形で議論を進められれば幸いである。



ツツガムシ模型

最新情報提供

「秋田県の古典型つつが虫病の発生例とその関連情報」

佐藤 寛子 氏（秋田県健康環境センター）

「山形県のつつが虫病患者発生状況（Kawasaki 型、Shimokoshi 型症例を中心に）」

金子 紀子 氏（山形県衛生研究所）

公開シンポジウム

共催：宮城教育大学

後援：宮城県医師会，仙台市医師会，仙台市，（財）宮城県公衆衛生協会，
宮城県農業・園芸総合研究所，宮城教育大学保健管理センター

9月11日(土)

8:55~9:00 開会あいさつ

- 9:00 1. ブドウ樹下への緑肥用ダイズ栽培によるカブリダニ類の保護増強
望月 雅俊(農研機構・果樹研)
- 9:13 2. バンカー植物から栽培作物へのキイカブリダニの移動
○古味 一洋・中石 一英・広瀬 拓也(高知農技セ)
- 9:26 3. 休作中の灌水によるハウレンソウケナガコナダニ防除の可能性と土着トゲダニ類の発生消長
○松村 美小夜・峯 圭司(奈良農総セ)・高久 元(北教大札幌・生物)
- 9:39 4. 静岡県の茶園におけるカブリダニ類の種構成IIーチリカブリダニが静岡県の茶園で土着化した!?ー
○小澤 朗人・内山 徹(静岡茶研セ)・豊島 真吾(農研機構・野茶研金谷)
- 9:52 5. 小ギク圃場周辺におけるケナガカブリダニの遺伝的構造
○日本 典秀(生物研)・國本 佳範(奈良農総セ)・小山 裕三(奈良県北部農林振興事務所)
- 10:05 6. 農地周辺の植生が持つ天敵カブリダニ保持及び生物多様性維持機能
天野 洋(京大院・農・生態情報)
- 10:18 7. Long-term storage of *Neoseiulus californicus* at low temperature and high humidity: post storage development, survival and reproduction ability
○Noureldin Ghazy (Chiba Univ.), Takeshi Suzuki (Chiba Univ.; JSPS), Maqsood Shah (Chiba Univ.), Hiroshi Amano (Kyoto Univ.), Katsumi Ohyama (Chiba Univ.)
- 10:31 8. ハダニ特異的殺ダニ剤ビフェナゼートの作用機序
○小林 武・平垣 進・落合 憲光(神戸大院・農)・鈴木 文詞(千葉大・学振PD)・Muhammad Tufail・竹田 真木生(神戸大院・農)・松田 一彦(近畿大院・農)
- 休憩-
- 10:55 9. 施設のバラから採集したナミハダニの薬剤感受性と交差抵抗性
○荘司 翼(茨城大・農・応動昆)・五箇 公一(国立環境研)・後藤 哲雄(茨城大・農・応動昆)
- 11:08 10. ミツユビナミハダニの生活史と薬剤感受性
後藤 哲雄(茨城大・農・応動昆)
- 11:21 11. Temperature-dependent development and life table parameters of *Tetranychus macfarlanei* (Acari: Tetranychidae)

○Mohammad S. Ullah, Tetsuo Gotoh (Ibaraki Univ.)

11:34 12. 好きな光, 嫌いな光: ナミハダニの光キネシス

○鈴木 文詞 (千葉大・学振PD)・小嶋 健 (京大・昆虫生理)・竹田 真木生
(神戸大・昆虫機能)・佐久間 正幸 (京大・昆虫生理)

11:47 13. Effect of night interruption on the diapause induction of
Kanzawa spider mite, *Tetranychus kanzawai*

○Maqsood Shah (Chiba Univ.), Takeshi Suzuki (Chiba Univ.;
JSPS), Nouredin Ghazy (Chiba Univ.), Hiroshi Amano (Kyoto
Univ.), Katsumi Ohyama (Chiba Univ.)

12:00~13:00 昼 食 休 憩

13:00~14:20 公開シンポジウム

座長: 高橋 守 博士 (川越高等学校)

「東北地方における恙虫病の変遷と今後の課題 - ツツガムシというダニそして
恙虫病, それは東北地方に始まった古くて新しい話 -」

高田伸弘 博士

(福井大学シニアフェロー・福井医療短期大学客員教授)

最新情報提供

S1. 秋田県の古典型つつが虫病の発生例とその関連情報

佐藤 寛子 氏 (秋田県健康環境センター)

S2. 山形県のつつが虫病患者発生状況 (Kawasaki 型, Shimokoshi 型症
例を中心に)

金子 紀子 氏 (山形県衛生研究所)

14:20~14:40 写 真 撮 影

14:40~15:40 総 会

15:40 14. メイソンワルヒツツガムシの生態

藤曲 正登 (千葉衛研)

15:53 15. タテツツガムシにみられる形態発育休眠の深さの地理的分布

○高橋 守 (川越高)・三角 仁子 (埼玉医大)・野田 伸一 (鹿児島大)・藤田 博
己 (大原総合病院)・金子 紀子 (山形衛研)・菊地 博達 (埼玉医大)

- 16:06 16. 台湾系ツツガムシ病をみた宮古島、そこで確認したデリーツツガムシの浸淫
○高田 伸弘 (福井大・医)・藤田 博己 (大原総合病院)・高橋 守 (川越高)・矢野 泰弘 (福井大・医)
- 16:19 17. イノシシの分布拡大はマダニの分布拡大をもたらすのか？
○山内 健生 (富山衛研)・茂木 周作・山本 英恵 (対馬野生生物保護セ)・小原 真弓・滝澤 剛則 (富山衛研)
- 16:32 18. 最近のマダニ刺咬症自験例につきその集約と考察
○矢野 泰弘 (福井大・医)・及川 陽三郎 (金沢医大)・高田 伸弘 (福井大・医)
- 16:45 19. 転写因子 Rel によるマダニ抗菌ペプチドの転写制御
○坪川 理美 (筑波大・生命環境)・中島 由郎 (産総研)・堀金 麻理 (東大・新領域創成)・田中 博光 (生物研)・DeMar Taylor (筑波大・生命環境)
- 16:58 20. みつばちにおけるダニの影響ーミツバチヘギイタダニとアカリダニー
○芳山 三喜雄 (畜草研)・門脇 辰彦 (名古屋大)・齋藤 佳奈 (筑波大)・周 宇林 (筑波大)・木村 澄 (畜草研)
- 17:11 21. エリマキトカゲから検出したヤモリダニ
○長堀 正行 (飼鳥野鳥病院)・遠藤 智子 (サンシャイン国際水族館)
- 17:24 22. コウチュウダニ体表面上の菌類
○岡部 貴美子・升屋 勇人・神崎 菜摘 (森林総研)

18:30~20:30 懇 親 会 (シェルブール)

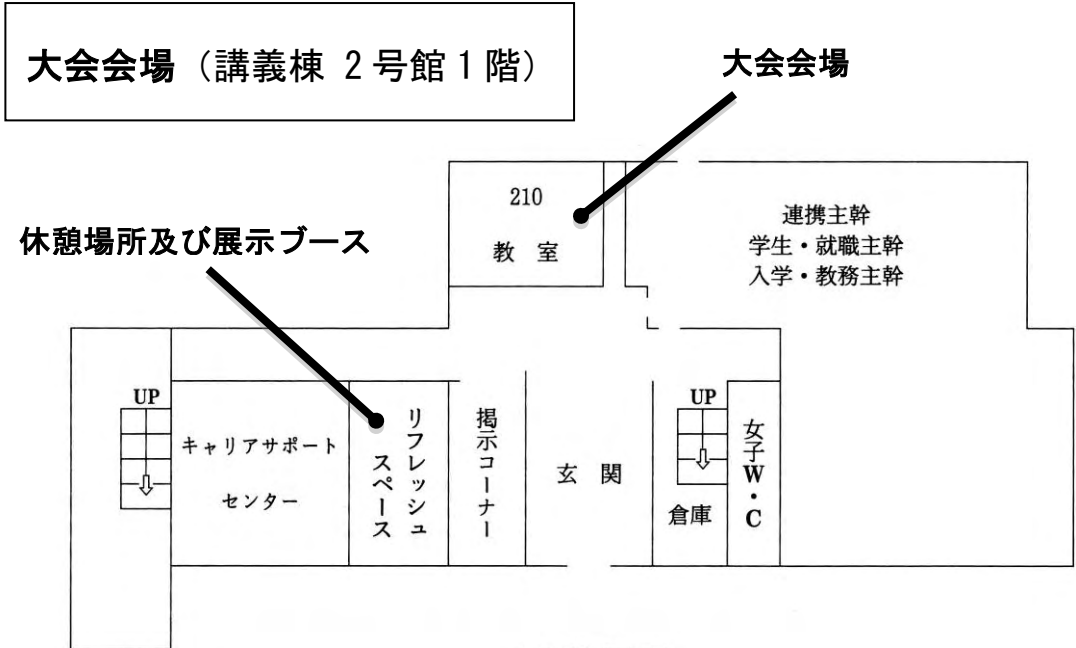
9月12日 (日)

- 9:00 23. 伊豆諸島・小笠原群島のメジロとメグロのウモウダニ
○黒木 知美 (宮城県)・川上 和人 (森林総研)・長堀 正行 (飼鳥野鳥病院)
- 9:13 24. コクロシテムシ (*Ptomascopus norio* Kraatz) に便乗していたヒゲダニ
田神 一美 (筑波大院)
- 9:26 25. ミトコンドリア DNA の COI 領域に基づく *Oligonychus* 属ハダニの 2 つのクレードの比較
○松田 朋子 (茨城大・農・応動昆)・日本 典秀 (生物研)・北嶋 康樹・後藤 哲雄 (茨城大・農・応動昆)
- 9:39 26. 日本産 *Tetranychus* 属ハダニに含まれる隠蔽種ーDNA 塩基配列の比較と生殖和合性ー

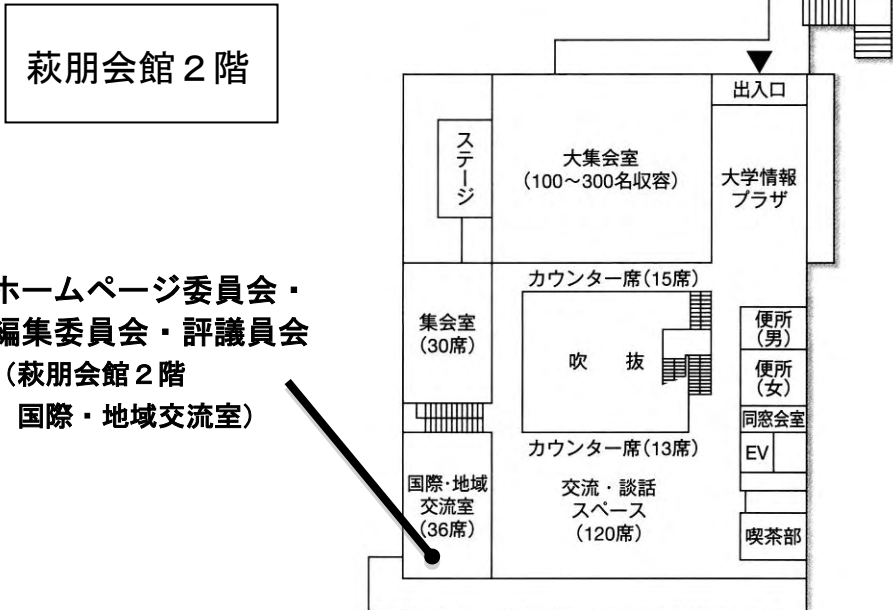
- 福本 千尋 (茨城大・農・応動昆)・日本 典秀 (生物研)・北嶋 康樹・後藤 哲雄 (茨城大・農・応動昆)
- 9:52 27. ハダニにおいて細胞質不和合性を誘導する共生微生物 *Cardinium*
○吉岡 主税・北嶋 康樹 (茨城大・農・応動昆)・野田 博明 (生物研)・後藤 哲雄 (茨城大・農・応動昆)
- 10:05 28. ササ・タケに寄生するスゴモリハダニ属の寄主植物の変異
○伊藤 桂・横山 菜々子・南谷 幸雄・早川 宗志・桑川 義雅・福田 達哉 (高知大・農)
- 10:18 29. 沖縄に分布する *Tetranychus* 属ハダニ類の野生寄主は、種によって顕著に異なる
○大野 豪・宮城 聡子・喜久村 智子 (沖縄農研セ)・後藤 哲雄 (茨城大・農・応動昆)・貴島 圭介・大石 毅 (沖縄農研セ)・諸見里 知絵 (沖縄南部農改セ)・原口 大 (沖縄病害虫防技セ)・與那嶺 要 (沖縄農研セ)・上里 卓己 (沖縄病害虫防技セ)
- 10:31 30. タンニン含有量の異なるチャ葉におけるカンザワハダニの産卵と発育
○豊島 真吾・萬屋 宏・石島 カ・佐藤 安志 (農研機構野茶研)
- 休憩-
- 10:55 31. 捕食回避の観点からみたチャノヒメハダニの葉内産卵場所選択
○須藤 正彬・刑部 正博 (京大院・農・生態情報)
- 11:08 32. ハダニ捕食性テントウムシ *Stethorus punctum picipes* の揮発性物質トラップによる野外調査
○前田 太郎 (農生研)・岸本 英成 (果樹研)・Lawrence C. Wright・David G. James (ワシントン州立大学)
- 11:21 33. ハダニ捕食性テントウムシ *Stethorus punctum picipes* の腸内容物による食性調査
○岸本 英成 (果樹研カンキツ)・前田 太郎 (農生研)・Lawrence C. Wright・David G. James (ワシントン州立大学)
- 11:34 34. 福岡県のササラダニ類
久保田 直
- 11:47 35. 古代湖琵琶湖の水草から得られたササラダニについて
○島野 智之・佐藤 拓也 (宮教大)・栗城 源一 (奥羽大・生物)・楠岡 泰 (琵琶湖博)
- 12:00 36. 湿地性ササラダニ飼育法の利点と欠点
栗城 源一 (奥羽大・生物)

12:15~20 閉会あいさつ

会場案内図



1F 平面図



2F

ホームページ委員会・
編集委員会・評議員会
(菘朋会館 2階
国際・地域交流室)